

令和6年度 第1回 佐倉市立美術館運営協議会

議事録

日 時：令和6年9月13日（金） 13：00～15：00

場 所：佐倉市立美術館 3階控室

出席者：以下のとおり

（委 員 9名）

安達委員、葛西委員、齊藤委員、田中委員、豊田委員、中松委員、長澤委員、樋田委員、安本委員

（職 員 6名）

平野館長、本橋副主幹（学芸員）、木邨主査（学芸員）、西川主任主事（学芸員）、永山主査（学芸員）

会議次第

1. 開 会
2. あいさつ
3. 報告事項
 - （1）令和6年度人事異動について （公開）
 - （2）令和5年度事業報告について （公開）
 - （3）令和6年度事業計画等について （公開）
4. 協議事項
 - （1）令和7年度の展覧会計画について （公開）
 - （2）令和8年度以降の展覧会計画について （公開）
- 5.その他
6. 閉 会

【1. 開会】

【2. あいさつ】

<館長よりあいさつ>

【3. 報告事項】

(1) 令和6年度人事異動について（資料4～5頁）

<事務局より説明>

(副会長)

教育委員会から市長部局へというのは全国的な流れですが、直営というところが大事だと思います。

(2) 令和5年度事業報告について（資料6～7頁）

<事務局より説明>（令和5年度第2回協議会後に結果が出たもののみ報告）

(副会長)

市民ギャラリー・ホールの貸し出しは貴重な財源だと思います。東京では団体のみの貸し出しが多く、佐倉市立美術館では個人への貸し出し、市民優先の料金などに特徴がある。このまま続けていって欲しいです。

(3) 令和6年度事業計画等について（資料8～9頁）

<事務局より説明>（今年度終了した事業のみ報告）

(副会長)

組織改編があって、予算はどうなりましたか。

(事務局)

組織改編に伴う予算の増減は今のところありません。

(副会長)

博物館法の改正で観光やデジタルアーカイブといったことが出てきましたが、その対応はどうですか。

(事務局)

デジタルアーカイブについては以前から公開済みでしたが、夢咲くら館の開館に伴い、図書館、美術館、文化課など佐倉市の資料を横断できるシステムに移行しています。

(副会長)

図書館は図書館流通センターなどが早くからデジタル化を進めていたので、その路線で続けていくとよいと思います。それが文化観光にもつながるかもしれません。

(委員)

実習生の受け入れとあり、若い方にもぜひ文化芸術の方面に進んでもらいたいと思いますが、学生さんたちはこの美術館に対してどんな感想を持っていましたか。

(事務局)

実習の最後に美術館への提案を考えてもらいましたが、SNSの使い方や、ネイルやコスメのミュージアムグッズなど、新鮮な意見をもらいました。

(委員)

デジタル化について維持管理費はどうなっているのでしょうか。

(事務局)

以前のシステムは美術館の予算でランニングコストを支払っていましたが、新しいシステムは図書館がまとめて予算を持っているので、美術館としては運用費の負担がなくなりました。

(委員)

デジタルデータは非常に維持費がかかると聞きます。ハリウッドではデジタルで撮った映画を、保存のために35ミリフィルムに変換しているそうです。フィルムの保存は管理費が1年間で1万円として、10年で10万円ですが、デジタルデータは10年たつと機器もソフトも新しいものに置き換えないと見られなくなってしまう。その経費が120から150万、12から15倍かかる。デジタル化にはそうした危険な面もあるということはお知らせしておきたいと思います。

(事務局)

貴重なご意見をありがとうございました。

(委員)

エドワード・ゴッリー展は、若いお客様も多く、にぎわっていたように見えたのですが、8,319人という入場者数はこれまでと比べてどうでしたか。

(事務局)

資料に、有料展覧会の入場者実績歴代3位までを載せていて、これには及びませんでしたが、多くの方に来ていただきました。アンケートをみると北海道など遠方からも来ていました。

【3. 協議事項】

(1) 令和7年度展覧会計画について(資料10～12頁)

<事務局より説明>

(委員)

この史代展は自主企画ですか。

(事務局)

京都の青幻舎という企画会社による展覧会で、金沢21世紀美術館と当館と熊本市現代美術館を巡回する予定です。

(委員)

図録は出すのですか。図録の編集や展示の構成に学芸員は関わるのですか。

(事務局)

図録制作は企画会社がおこない、直接ミュージアムショップと契約してもらいます。企画内容には関わりませんが、独自色は出していきたいと考えています。この史代さんの代表作「この世界の片隅に」は、戦争を題材としていて、広島のを詳細にリサーチして漫画に描いています。来年は戦後80年となりますが、佐倉にも連隊があり、その資料が最近夢咲くら館の市史編纂担当に寄贈されました。展覧会に合わせてその紹介や講演会が実現できればと思っています。

(会長)

宮内優里展はいかがでしょうか。

(委員)

博物館法では地域活性化の拠点ともうたわれていますが、その役割を果たすために現代美術の展覧会は有効ではないか。通常の展覧会では、美術館と市民は、展示する側と鑑賞する側に分かれてしまうが、この展覧会ではそれとは違う活動が期待される。現存の作家は、これまでの活動があって、ここでの活動があって、その後また別なところで活動していく。そうするとその関係者や地域の諸活動がつながっていく。可能であれば経年的に試みていってはどうでしょう。

(事務局)

宮内優里さんは、この近くの旧堀田邸という文化財施設で、毎年屋外の活動をおこなっていて、今年で8回目になります。近隣自治体でも認知度が上がり、多くのお客様が集まるイベントになっています。作品は、自然の中で採集した音をベースに、ここから10分ほどのところにあるスタジオで多重録音をして仕上げていくという制作を続けています。映像も含めた作品を見た後で、録音した場所に足を伸ばしてもらえたら、見える世界が変わってくるのではないかと、展示を見終わって「耳が開く」ような体験をしていただければと考えています。

(会長)

どんな経歴をお持ちの方なのですか。

(事務局)

和太鼓奏者の父親とピアノの先生である母親の家庭に生まれましたが、音楽を専門的に学んだわけではありません。20代半ばぐらいから音楽制作を始めましたが、スタジオで録音してCDを発売するようなスタイルではなく、ライブでその時出した音をループさせ、さらに音を重ね、その場で作り上げていく電子音楽系のパフォーマーとして知られています。最近では自閉症の方が情動的に繰り返し運動をする

ときに発生する音を採集してアニメーションにするNHKの番組などメディアでの
コミッションワークや、映画音楽で活躍されています。

(会長)

展示のイメージがよくわからないのですが。

(事務局)

宮内さんの音楽づくりの特徴である多重録音がわかるように、最初に採ってきた
音、次に編集していく過程の音、そして完成した音が聞けるようなブースや、観客
が主体的に音を重ねていけるようなギミックがつかれないかと考えています。テク
ニカルな部分は市原市在住の若手の映像作家や、西千葉に拠点を構えるプログラマ
ー、プリンティングディレクターなど千葉在住の方でチームを組み、最近日本建築
学会賞などを受賞した佐倉出身、佐倉高校卒の建築家、山崎健太郎さんにも入っ
ていただいています。このメンバーで鑑賞に耐えるクオリティの空間をつくってい
こうと考えています。

(会長)

自主企画展は予算がかかるのではないですか

(事務局)

通常より高めですが、1, 500万円くらいを見込んでいます。

(会長)

力の入った企画、楽しみにしています。

③の企画はやはり図書館とのコラボレーションという位置づけですか。

(委員)

今年のゴーリー展、令和8年以降にも絵本展とあり、これを継続していくのは美術
館の目的を踏まえて、どんな意図があるのですか。

(事務局)

向かいに図書館ができ、本に関する展覧会を新たなひとつの柱として加えました。
観光拠点、地域活性化も踏まえ、一般に絵本展は集客しやすいという面もありま
すが、やるべき意味のあるものを探しながら継続していこうと考えています。

(委員)

連携というのは図書館の方も企画に参加するという意味ですか。

(事務局)

司書の方に参加していただくことはなかなかできず、今後の課題です。内々で意見
を聞いたり、図書館内にコーナー展示をしてもらったりはしています。

(委員)

美術館・文化課は市長部局の魅力推進課、図書館・公民館は教育委員会の社会教育
課となりましたが、真正面にある図書館との連携はとても大事だと思います。

(委員)

広野多珂子さんはどんな作家なのですか。

(事務局)

佐倉在住の絵本作家です。文も絵も手掛けている絵本もあるし、角野栄子さんの『魔女の宅急便2』など、児童文学の挿絵や雑誌の表紙、教科書の挿絵なども描いています。

(2) 令和8年度以降の展覧会計画について (資料13頁)
<事務局より説明>

(会長)
自主企画展が増えたのではないですか。

(事務局)
学芸の人員も限られているので、集客のための巡回展を織り交ぜながらも、なるべく独自性のある自主企画展をやっていきたくと考えています。

(会長)
予算はつきそうですか。

(事務局)
自主企画展は金額が読めないところがありますが、意義や効果を伝えて、これまでと同規模の予算を確保していきたくと考えています。

(委員)
小村雪岱は楽しみな展覧会です。日本近代美術の中で重要な役割を果たしながら、あまり知られていない作家をとりあげていくのはよいと思います。泉鏡花など幻想的なものは若い人も関心を持っているし、文学とのかかわりなど専門性の高い展覧会には東京からも人が来ます。

(事務局)
今村恒美も横溝正史の挿絵を描いているので、文学という切り口もあるかもしれませんが。ただ当時の出版界の慣習で原画があまり残っていないかもしれないので、かなり調査が必要です。

(委員)
「日本の古本屋」というサイトで原画が出てくることがあるようです。出版社に眠っていることもあるので、調査してみてもは。

(会長)
絵の展覧会ではありますが、両方とも装飾的な絵画といえます。どう展開するとアピールできるか、ご意見があればお願いします。

(委員)
これまで工芸などの立体も取り上げていましたが、平面にシフトしていく流れも、それはそれでよいと思います。どちらにしても背景となる佐倉の歴史と文化、まちの性格に踏み込んでいけるとよいのでは。例えば東京国立近代美術館がやるのではなく、佐倉市立美術館がやる意味を見せていく。

(会長)

小村雪岱は資生堂や弥生美術館でもやっていますが、もう少し土着的なところに引き戻せたら。

(委員)

佐倉に関係する登場人物を増やしていき、新たな視点を出せれば、背景となるまちの雰囲気も味わいながら佐倉まで見に行こうという人が来るのでは。

(事務局)

水島爾保布も佐倉藩の出身ですが、社会に対して斜に構えたところがあり、譜代の藩出身の人たちは明治新政府に対して「負け組」の独自の文化を築いていった面があるのではないかと漠然と思っています。

(委員)

小村雪岱は川越で、佐倉もそうですが「小江戸」と言われている。「大江戸」に対するそんな意識もおもしろいですね。

(委員)

絵画の公募展などは、もはや伝統芸術的になりつつありますが、若い人でもやりたい人はいて、一定数残っていくのではないかと思います。一方でデジタルの作品など、新しいものと両面が必要になっていると思います。

(委員)

1年間の活動の中にお客さんが入る展覧会という視点もあって、現状はバランスが取れているのでは。現代作家の名前も挙がっていますが、日ごろの調査研究を展覧会に結び付けて行って欲しいと思います。

(委員)

工芸や彫刻など色々な分野を取り上げるのもよいですが、夢咲くら館にあわせて、絵本をやっていくという特徴が出せるなら、それも良いと思います。しばらく続けると、ファンもついてくるのでは。また魅力推進部ということで、まちづくりと連携して、美術館から一歩まちに踏み出してもらえる工夫があるとよいと思います。

(委員)

書の分野でも佐倉には探せばそれなりの人がいるとは思いますが。関連付ける機会があれば取り上げていただきたいという願望はあります。

(委員)

美術館が新しい方向を探っている状況で、8年度以降の計画も出てきて、ずいぶん皆さんで議論されたようにみえます。佐倉藩の家系という方向でまずは進め、問題点などが見えてきたら、また見直しをして、10年後、20年後に生かしていくとよいと思います。現時点では非常にバランスが良いが、5年後はまたどうなるかわかりませんから。

(5) その他

(会長)

事務局から何かありますか。他にはありませんか。それでは、ここまでといたします。

【4. 閉会】